

DECLARATION

I, Takayoshi MATSUMOTO, a citizen of Japan, c/o Miyoshi & Miyoshi of Toranomon Kotohira Tower, 2-8, Toranomon 1-chome, Minato-ku, Tokyo 105-0001, Japan, do hereby solemnly and sincerely declare:

That I am well acquainted with the Japanese language and English language; and

That the attached is a true and faithful translation made by me of the Japanese document, namely Encyclopedia of Catalyst to the best of my knowledge and belief.

This 7th day of February, 2006

Jalsayoshi Matsumto
Takayoshi MATSUMOTO



MEASUREMENT OF DIAMETER OF METHALLIC PARTICLES

(3) GAS ADSORPTION METHOD:

By measuring an amount of adsorbed gas per unit weight of a supported metal catalyst, the total number of surface metal atoms is calculated from the number of gas molecules adsorbed to one surface metal atom (stoichiometry of adsorbed gas). From this value, the dispersity and average particle size of the metal can be calculated. The measurement uses a volumetric or pulse adsorption apparatus, but it should be careful to satisfy the following conditions: gas which is adsorbed only to the metal and not to a support is used; the measurement is performed under such measurement conditions that gas is adsorbed to surfaces of metal particles as a monolayer; and the gas molecules are adsorbed to the metal surface atoms at a certain rate and the rate does not change depending on the metal particle size or the support.

The gas molecule is generally hydrogen but is carbon monoxide in some cases. In the stoichiometry of adsorbed gas, hydrogen atom/surface atom=1/1 is established for Ni, Pd, and Pt. Moreover, there is another method in which the metal with oxygen adsorbed thereto is reacted with hydrogen or carbon monoxide for titration. For example, the number of surface metal atoms can be calculated by a reaction formula: Pt-O (surface) + 2CO (gas phase) \rightarrow PT-O (surface) + CO₂.

BEST AVAILABLE COPY

Pristed in Japan

ISBN 4-354-252/2-0 C358

国(日本位写指センター安証出版的・特別位い) 本型の駐倒復写は、著作物度上での部外を踏ま、第じられています。 本費は、日本資品権センターへの複数を飛出原物です。本籍を復写 される場合は、そのンピ日本復写機センター(関係 03-3401-2020)を 選して当社の計議を得てください。

۰, ۰						_	•	_		••			. .	-	_			-					٠.	-	_		•			<u> </u>								
VPI-5 475	≥	Warker process 599	Wagner-Meerwein fe	wan reactor 175	water gas shift reaction 331	water purification 529	wer oxidation 378	Williamson confidence 82		Woodward-Rollmann rule	£60	×	1	X type seolile 103	X-ray absorption fine struc-	hure 105	X-ray absorption max cage	V-ray alsombion near edge	Bleuchure 105	~	K-ray microanslyzer 108	X-ray photoelectron	The state of the s	AANES 105	XPS 106	XRD 103	. >		Y type molite 598	ь	2	C potential 341	zeolite 331	zeolite # 507	Zegler Calaty 224.		Zignite-mann pride 25 215	CIC PRODIC
	7	Uhree phase reactor 304 three-way catalyst 260	<u>66</u>	2 5			291,392				trans influence 414	transient response method	160		scope (07	frai	spectroscopy 407	trickle bed 415	trickle bed reactor 191,413	hander medually and the		n	100	oltrafine particle 385	ultra officer production of	ulyaytelet - visible spectro.	370 ycor	upgrading 13	Ut5 213,300	Þ	LC tentant Cart of		vanadum pentoxide catalyst	223	Vaska compound 81	vegara faw car rold 206,517	vnidage 206	volcano shaped activity pat-
		methylamines 555	_	f onethyl formale 178	nvelkyl methocrytate	578 6stroll to Seeder alliant		of maphthocomone	420	of nitrous axide 9	of old lates 20	of phthalic anhydride	75	of propylene oxide	497	Principal State	of viny sociate 251	of vinyl chloride 119	of sinylidens chlocide	611	8	ju	Folot 392	퉏	telomediation 286	TEM 407	187	Tenkin-Pycher equation	387	temperature appropriation	IEI	temperature programmed	description 291,292	Tr Mulanalysis 428	thermal black. 16L	thermal cracking of naphiba	tto thermal desorption method	100

ASAKUKA SHOTEN KABUSHEKEGAESHA 1959 年 自己各項化生产化6 1981 年 東京大学工学的広馬化学科 東京都新居区所心川町5-39 新日本印刷·使因数本 **熱無食昏** BDB号 162-8787 PAK 03 (3260) 0180 http://www.asabars.co.jp 聚 版63(1260) 014B Makoto MISONOU YOUND MOROOKA 西面は今番に有示 Publication Office 品 在 教官大学名略教材 工学院大学科教技 Yeshio ONO **自國生** 學 部行用 をとま 西班布 first edition Encyclopedia of Catalyst 東京工学大学大学院院士昭 程467 大学等的。学位战争的影響是工学等上 1938年 安保将に生まれる 1981年 東京大学工学部広用化学科 ○ 2000(信斯斯耳·斯克卡拉列 First impression of the 2000年11月1日 到底第13 東京工學大學名官教育 教館大学教授 工学課士 京成工業大学名誉的校 対象の事件 事味部に生まれる November 1, 2000 《海田省略》 ル良に彦 小野野天 1958年 1967年 加 恩

緊急者動閥

などを担格としたときに親廻される SMSC・(strong metal support interaction) や水 猿のスピルオーパー•が後者により説明されたことから、極媒作用に対する位子径効果の原因は国体効果であるとする研究が多い。 固体との相互作用により金属の電子状態が変化する鏡子は、XPS・などの電子分光法・で韓國されている。 (上野兔史)・+金属粒子程領定法

鱼房粒子径通定法 measurement of diameter of metallic particles —

程符金図程度、では、金属位子の粒子径。かかさくなると、疾風積の増大が切え、こッジやコーナー館および担体との接合界面周路部の原子の背合が着したり、固体との相互作用(電子修石、合金化など)の領在化により、触媒活性や選択性が着しく変化する場合がある。したがって、金属粒子のは弦を固定することは触媒特性を理解するうえで重要であるが、実際の配媒では金属粒子は大きもの分布をもっているので、金属粒子を软件と仮定したときの粒子径分布から束められる平均直径、または胸媒に含まれるすべての金属粒子の総金属原子数 K に対する表面に出ている金属原子数 A まれるけべての金属粒子の総金属原子数 K に対する表面に出ている金属原子数 A の割合、M/M/分散度・J に紹価する、通常の建物金属機様では金属粒子経路を一切の町であることが多いので、電過電子環段鏡、X線回所機隔、気体吸槽による方法が有効であることが多いので、電過電子環段鏡、X線回所機隔、気体吸槽による方法が有効

しかる。 (1) 改造電子研究館: 透過電子顕敬館を用いると,電子機が活過する度合が数 質によって違うため最終の平面像として金属粒子の形状と寸法を直接機響することが 可能で、粒子径分布を決定できる。担待金属地様の場合。担体である金属銀化物の粒 子が金属粒子より1桁以上大きいので、Pd や Pt などの資金属でないと 5 mm 以下の 超微粒子*を頻解してくいという総約がある。また、金属粒子の分散が触媒は料全体を 適して一様でないと、閲算する場所ごとに粒子程分布が署しく異なり、数千個にわた る粒子を観察しても正しい粒子径分布が得られないことがある。 2 nm 以下の組織的 子はコントラストが薄く、晃落とすことが多くなることにも注意が必要である。

(2) X線回折: 粉末X線回折パターンを引定して、金銭粒子による回桁ピークの 半値筒 Δ(2の)(装置による線筒を差し引いたもの)かちシェラーの式によって金銭餅 晶子の大きさ dan b階質できる.

 $d_{ads} = K\Omega/\Delta (2\theta) \cos\theta$

ここに、4m. は(A, A, O 結晶方位の結晶子径、1/1はX線の改長、9 は回折角、K は動子の形状、装置の比像などに依存する定数で、0.9~1.4の値をとる。

る結晶方位について上記の方法で結晶子の大きさを求めれば、機同学物形状に関係 る情報も得られる。測定可能な粒子程範囲は3~100 nm であるが、これより小さな鉱 関粒子では回折ビーブが現れなくなるので評価できない。また、この方法によって様 られるのは結晶子径であるので、一つの粒子が多数の結晶子の集合からなるときは対 子径を求められない。

・エニュン・ (3) 気体破着法: 相待金頭触媒の単位遺量当りの気体吸着量を調査すれば。表面 金属原子1個当りに吸着する気体分子の数(観着気体の量識)から装面金属原子の総数

「京か床められる」この数値から、金馬の分散費・や平均粒子径が計算できる。選定には容子、ま法やパルス法。吸着装置を使用するが、目体に吸着せず、金属にのみ選択映着する気法を用いる。 気体が金属粒子表面に単分子階数増する 耐定条件で行う、気体分子が金質を固加る子に一定比で吸着し、しから、金属粒子径や塩体によってその比率が変からないこと。などの条件が満たされているかに注意することが必要である。

が、気体分子としては、水煮を用いることが一般的であるが、一般化炭素を用いることが、気体分子としては、水煮を用いることが、ちある、吸着気体の量割は、Ni, Pd. Pt. に対して水漿原子/敷面原子=l/1 が成立する。 また、健薬吸労のもと水来または一酸化炭素と反応させて敵ぼする方はもあり、例えば、pt. O(変面) +2CO(気相) → Pt-CO(表面) +CO、の反応式いら表面金属原子数をは、pt. O(変面) +2CO(気相) → Pt-CO(表面) +CO、の反応式いら表面金属原子数をは、pt. Pt-O(変面) +2CO(気相) → Pt-CO(表面) +CO、の反応式いら表面金属原子数をは、水めることができる。

均离优裁法 bomogeneous precipitation method 一次股法 —

空間時間 space time

麻通反応装置において、原料供給速度(単位話間あたりに供給される原料の体徴)を b,反応器脊積(または除媒体質)をVとしたとさに、空間時間 t=V/bu となる、空間速度*の逆数であり、時間の単位をもつ。 bu と V を変えることによって空間時間を変化させて飯化萃を求めると、両者の関係から反応速度式が得られる.

[五十岁

空間速度 space velocity; SV __

「本通反応装置において、原料供給重度をい。反応器容積(または触媒体数)をVとしたときに、空間速度 SV=n/V と定義され、単位は時間の逆数(n-1)である。反応器で、単位容積(または単位検媒体費)でどれだけ多量の原料を処理できるかの目安となり、所定の仮化率を得るために必要な空間速度の値が大きいばど、角媒性能がすぐれている。 工業的に触媒性能を評価するときには、反応器容積つまり地媒体保护値要となるでので空間速度は便利な指導であり、研究レベルと工業期終の触媒性能を空間速度で同談一に評価することができる。

原料が気体または蒸気の場合は、層料供給速度として単位時間あたりに供給される 原料の電神状態(0°C, 1 akm)での体質を用い、供給速度を反応路容明で割った値を ガス空間速度(CHSV:gas hourly space velocity)と表す。ガス空間速度を単に空間 ・遊度ということも多い。 有製物や水溶液のように穏準状態では液体であるが,反応条 ・肝では気体や蒸気となる原料については、腐料供給速度として単位時間あたりに供給

. ₩97年11781 HZ #900

ħ